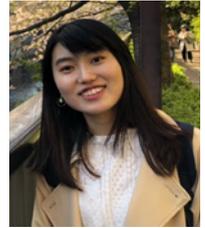


アクティビティ ウォール

- 新大久保で外国人に新たな居場所をつくる -

AJ16006 阿部 寛子
 指導教員 郷田 修身
 担当教員 岡野 道子



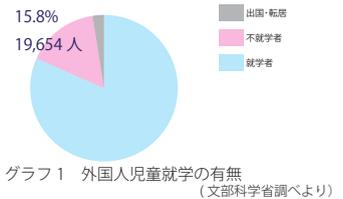
01. 背景

近年、少子高齢化が進む日本は人口が減少傾向にある。その一方で、経済協力開発機構（OECD）加盟 35 カ国の最新（2015 年）の外国人移住者統計によると、日本への外国人の流入者は約 39 万人で世界 4 位となり、着々と事実上の「移民国家日本」へのステップを踏んでいる。今後ますます少子高齢化が進む日本において、外国人の存在は大きな影響力があるのではないだろうか。

02. 問題提起

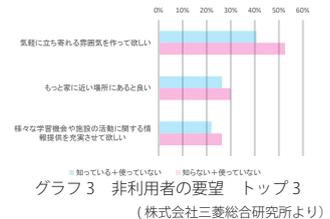
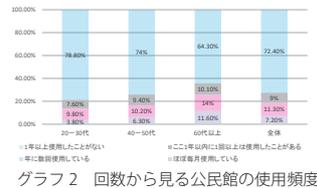
◆日本に暮らす外国人児童の不就学率が高い現状

これまで外国人が日本へ出稼ぎに来るとき、1 人で来るケースが多かったが、最近では家族を日本へ連れてくることが増えてきている。この傾向の中で連れてこられた外国人児童は、様々な個々の理由から学校に通うことができず、孤独になってしまうことが社会問題になっている。下のグラフ 1 は、日本に暮らす外国人児童のうち、16%近い約 2 万人の外国人児童が学校に通えていないことを示しており、外国人労働者が増加する日本では今後より深刻な問題になるだろう。



◆公共施設—公民館がうまくみんなに使われていない

また、市民の学びの場として提供されている公民館は、特定の人のみの利用に留まり、稼働率が低いことが問題になっている。その原因として近寄りたがたい雰囲気や挙げられ、親しみやすさがないことが大きな要因となっている。公民館でもっと外国人が集い交流してもいいのではないかと考える。



03. 敷地 新宿区の新大久保駅周辺に敷地を選定する。

東京都に暮らす外国人の数は全国で最も多く、中でも新宿区は、4 万人以上の外国人が暮らしている。新宿区の特徴として、中国人や韓国人はもちろん、ベトナム人やネパール人、ミャンマー人の人口も多くいることが上げられる。中でも特に新大久保駅周辺は、人口の 35%以上が外国人が暮らしており、とても多国籍化が進んだエリアとなっている。そこで、新大久保駅と鉄道を挟んだ対岸にある、約 300mの細長い形状の土地を敷地を選定する。



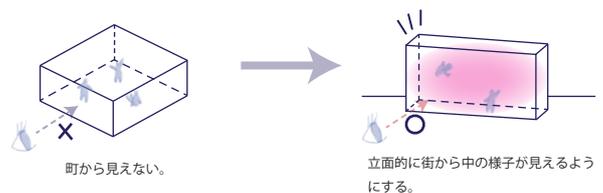
04. 提案 アクティビティ ウォール

公民館の中での活動が新大久保の街中にあふれることで、そこでのアクティビティを日常化させる。これによって、日本人だけでなく、日本に暮らす外国人にとっての新たな居場所になるような、これからの公民館のあり方を提案する。また、この敷地に公民館を建てることで、駐車場や住宅展示場など仮設的な利用をしている現在から、もっと住人が活用できる空間を自分たちで作っていき、愛着が湧く空間へと変化させていくことを期待する。

05. ダイアグラム

◆ボリューム計画

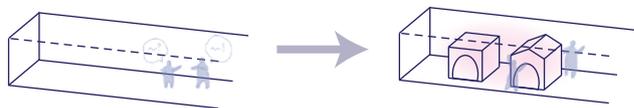
平面的に広がるボリュームを垂直に立てることで、アクティビティが町から見え、入りやすい雰囲気が生まれる。



少子高齢化で人口減少が著しい日本であるが、その一方で日本に暮らす外国人の数は年々増加している。そんな外国人のうち、両親の仕事で日本へついてきて暮らす外国人児童が、様々な理由から学校に通うことができずにいるケースが多く見られ、社会問題になっている。これを解決するために、市民が集い交流が生まれる公民館を提案する。そこでの人々のアクティビティがまちに溢れることで国籍に関わらず交流が生まれることを期待する。

◆平面計画

何も無い空間に、使い手自身が必要な家具を自ら増やしていくことで空間をより豊かなものにみんなで作り上げてゆく。

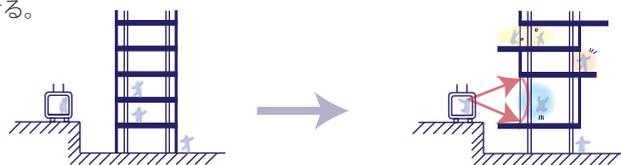


◆断面計画

階層ごとに分断されるのではなく、上下間が緩やかに建物内がつながる。

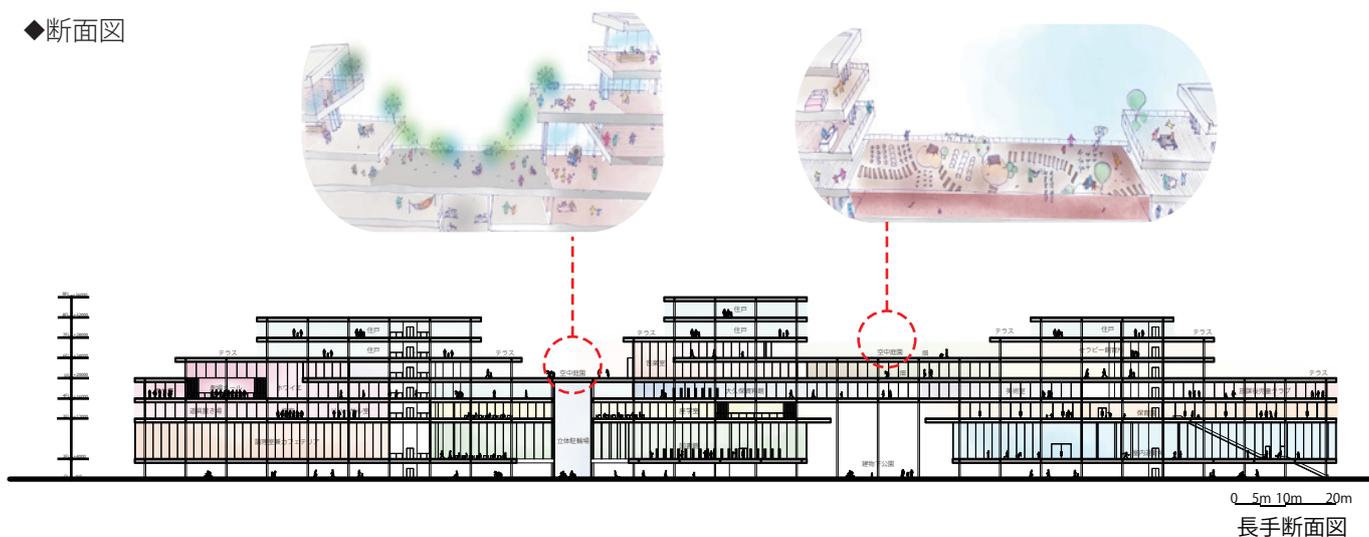


電車とのつながりを意識し、町にとどまらず交流の輪がより広がるようにする。床を外に向かって延長することで、アクティビティを外部に表出させる。



06. プラン

◆断面図



0 5m 10m 20m
長手断面図

◆模型写真

